

J-27

## 享穩の礎その2

### foundation of the enjoyment of calm 2

佐藤信治<sup>1</sup>, ○熊本一希<sup>2</sup>  
Shinji Sato<sup>1</sup>, Kazuki Kumamoto<sup>2</sup>

Japan has become a multi-death society, and demand for crematoriums is increasing, but there is much opposition to the construction of new ones. This is due to “indifference to death” and the fact that facilities dealing with death are designed to be inconspicuous and offer few opportunities for people to learn about them. Therefore, by placing the crematorium at the dam, a new place will be created where the deceased can be mourned in nature and sent from the city to rest in peace. Furthermore, by using the sand deposited by the dam to create graves, spreading from nature to the city, a space where people can learn about death will be created.

#### 1. はじめに

現在の日本では少子高齢化という問題に直面している。中でも都市部の高齢者人口の増加は顕著であり、亡くなる人が増える多死社会を作り出している。

多死社会では死者数に対して火葬場の数が足りず、火葬場不足となっている。これからも増える需要に対応するために火葬場を新設する必要がある。しかし、住民の反対により建設が進まない状況にある。これは、いま生きる人が死に嫌悪感を抱き、死というものを身近に置きたくないと感じているためである。

#### 2. 計画背景

##### 2. 1. 死者数の増加

人口が増加する都市の中でも、相模原市は2010年に政令指定都市となってから人口が急増し、2027年には7,674件の火葬可能限界に到達する見通しである。

##### 2. 2. 死への意識

火葬場建設への反対理由で一番上がるのは、「葬儀場の存在が死を連想させる」という心理的理由であり、人々は死を自分には関係ないものとして捉えている。これは、人目に付かないように作られた死を扱う施設が、人から死を考える機会を奪っているためである。

火葬場では機械的に火葬が行われ、人々は火葬場に暗く、近寄りたがいない印象をいだしている。

#### 3. 基本方針と計画

上記の背景から、都心部を中心に増加する死者数に対応できる数の火葬場を新設するために、日本人の死への認識を良好なものにする必要がある。

そこで、現在の機械的に行われる火葬場を、美しく最後を彩れる空間と人々が死について考える空間へと変える。

##### 3. 1. 計画地

神奈川県相模原市緑区にある相模ダムを計画敷地とする。

現在の相模原市の火葬場は東部に集中しており、市は西部に火葬場の新設を検討している。また、火葬場は、火葬炉、燃料タンク、霊安室など多くの機能を必要とするため広大な空間を必要とする。広大な空間を有し、西部に位置する相模ダムは、火葬場の建設に適した場所であるといえる。

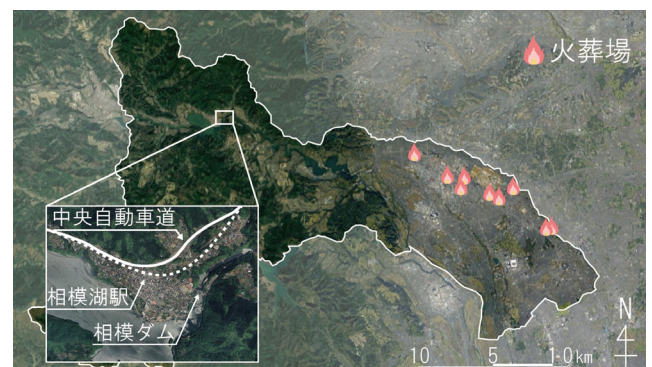


Figure1. Planned area [2]

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2: 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

## 4. 建築計画

### 4. 1. 規模計画

所在地：神奈川県相模原市緑区与瀬

主要用途：火葬場

敷地面積：15,000m<sup>2</sup>

建築面積：3,368m<sup>2</sup>

延床面積：9,430m<sup>2</sup>

### 4. 2. ダムの活用

相模ダムは相模川の中流域に位置し、堆砂しやすい状況となっており、約35年後にはダムの半分が砂で埋まると予想される。この堆砂により相模海岸では30年間で約50メートルの海岸線が後退している。

この堆砂を吸い上げ、砂の乾燥過程に火葬炉の熱を利用することで、発生する熱を処理する。

回収した砂は、粒径によって分類し、大きい砂は、コンクリと骨材として墓石に利用する。また、小さい砂は水と共に海へと流し、砂浜へと供給する。

これにより、ダムで起こる問題を火葬場によって解決し、終わりだけでなく、生きる人々の助けとなる。

### 4. 3. 全体計画

街、ダム、自然の3つの領域に分け、故人を弔う空間を設計する。

街の領域では、肉体のある時間を陣族と過ごす場として安置ホテルを配置する。また、劇場の機能を挿入し、街の人々の日常利用を図る。

ダムの領域では、火葬場を配置し、肉体との別れの場となる。

自然の領域では、墓を配置し、故人を埋葬する。

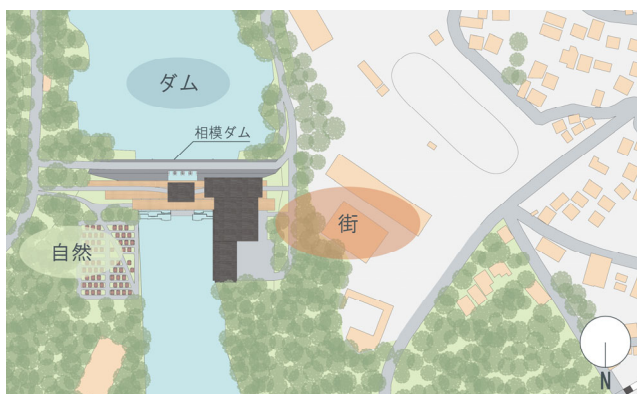


Figure2. Zoning diagram

### 4. 4. 街の領域

劇場では舞台と同時に見える景観によって、人々が死について考える機会を与える。

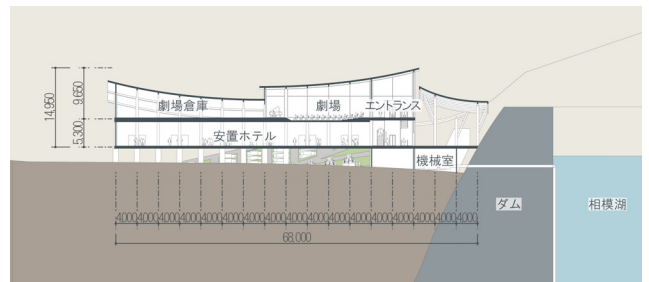


Figure3. Street side section

### 4. 5. ダムの領域

葬儀中の他人との交差を無くし、弔いというプライベートな空間を守る。

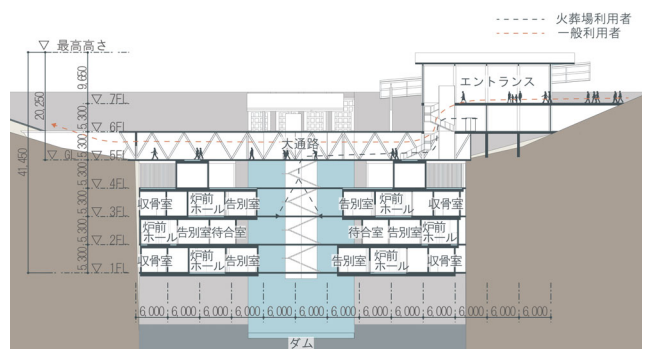


Figure4. Dam side section

### 4. 6. 自然の領域

ダムの砂を利用したコンクリートで墓石を作ること、デザイン自由度がある。個人の趣味などを形にすることで、より特別な埋葬が行える。個性的な墓が作り出す外部空間は、人々の活動の場となり、人々が死について考える空間となる。



Figure2. Tomb parse

## 5. 参考文献

- [1] 相模原市：[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_001/008/629/kihonkousou\\_honpen.pdf](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_001/008/629/_res/projects/default_project/_page_001/008/629/kihonkousou_honpen.pdf)
- [2] Google map：<https://www.google.co.jp/maps/?hl=ja>